



乃、あ
れ

第13号

Communication

い

2017

菊池有働病院

KIKUCHI

院長ごあいさつ



菊池有働病院 院長
城 隆一郎

“ 安寧な日々を願う ”

震災の年を振り返り新しい年度の始まりに際しご挨拶を申し上げます。

平成28年1月の全職員研修会で今一度、当院の医療理念、看護理念、何が病院を支えるのか、多職種の協働、リスペクトとは、地域貢献に必要なことは何か等を確認し、4月1日に新年度を迎えました。それから僅か2週間、4月14日に熊本大震災（前震）が起きました。翌15日夜、震源に近く甚大な被害を蒙られた病院から急遽転院の患者さんを受け入れ、職員と“大変だったね、疲れたね”と労いながら帰路に就いたのですが、これで終わらなかったのが、16日夜中に起きた本震でした。直ぐに運動場に逃げられるよう、院内で一番広いフロアーに全患者さんを集め一日様子を見ました。幸い病棟は大きな被災もなく、給食は非常食でどうにか賄えたのですが、駆けつけて患者さんのお世話をしてくれた職員の中には自宅が損壊した人もいて心を痛めました。

外来は通常業務が継続できましたが、徐々に震災関連の精神的不調で受診される方が増えたように思います。復興までにはまだ時間がかかりそうです。

7月26日、私達にとっては非常にショッキングな事件が起きました。相模原事件です。詳細はこれから段々判明すると思います。犯人が措置入院を経験した人間である事、歪んだ思想の持主らしい事など、メディアを通じて断片的な事しか分かりませんが、知的障がい者施設に関わりを持つ身としてはとても暗澹たる気持ちになってしまいました。二度とこのような悲惨な事件は起こって欲しくないものです。

精神障がい者の地域移行が叫ばれて久しいのですが、まだまだそのハードルは高いようです。それでも少しずつ前進出来るよう病院全体として“心に寄り添う医療”を実践すべく努力したいと思います。そして、“安寧”な日常が送れますよう願う今日この頃です。

関係各位、機関のご指導を宜しくお願い申し上げます。

ごあいさつ



菊池有働病院 副院長
田中 隆彦

“しまなみ海道の教訓”

2016年2月末に荒尾市の有働病院より副院長として赴任してきました。

自宅から片道1時間半ほどを老体に鞭打ち、車で通勤しています。私のストレス解消法は身体を動かすことで、トライアスロンに出ている友人の影響もあり、2011年1月より週2～3日、1回8～10kmを帰宅後に走っています。その成果を試すため、2012年11月に広島県尾道市から愛媛県今治市まで、“しまなみ海道”を2日間で走破する計画を立てました。地図上で走行距離を計算すると68kmほどで1日34kmを2回走れば完走できると考えて尾道市から走り出し2日目に無事ゴールしました。到着点「今治市サンライズ糸山」では、出発点からの走行距離が77.4kmと記載された石碑があることを職員の方から聞き非常に驚きました。初めからその距離を知っていたら、2日連続でフルマラソンに近い距離を走る自信はなく、計画を断念していたと思います。しかし、その時は1日34kmと錯覚して2日間走り、筋肉痛も関節痛もなく完走することができました。

実は、1999年5月に“しまなみ海道”が開通し、ニュースで自転車・歩行者道路が完備していると聞いた時に、インラインスケートを履いて瀬戸内海を横断することを思いつき、同年10月に今回と同じコースを1日(6時間半)で滑走しました。当時は、走っての横断は絶対に無理と思い込んでいましたが、13年後には完走することができました。

このように、人は自分の限界を自分で勝手に作ってしまう動物のようです。

このことは個人だけではなく、個人の集合体である組織にも当てはまるように思います。

最初から何事も諦めず、明確な目標を持ち、よりよい病院を目指して、みなさんと共に日々の努力を続けていきたいと思っています。

Never Give Up. Never Too Late.



熊本地震を経験して

看護部長 河崎 明法

この度、熊本地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私は偶然にも本震が起こった平成28年4月16日午前1時25分、当直勤務で病院内におりました。この体験を今後の危機管理体制の見直しに役立てたいと思い、振り返ってみました。

4月15日、何事もなく23時頃に就寝。深い眠りについた頃、突然「ゴォー!」という音と揺れで目が覚めた。『直ぐに収まるだろう』と思っていたが、収まる気配もなく停電。壁の掛時計など色々な物が床に落ち、コピー機は3m程移動した。当直医も「こらー、いかん。危ないよ!」と2階の当直室より慌てて降りて来られた。その後も震度6~4の余震が続く中、「これは建物が崩れるかもしれない…患者様の避難を!」と考えた。『現状把握をしなければ…』と思った矢先に病棟夜勤の職員より「今のところ大きな被害は出ていない」との報告が入った。とりあえず、電話で応援要請を試みたが回線が不安定で繋がらず、辛うじて「LINE」通話で数名の職員に連絡が取れた。自ら駆けつけてくれた職員もあり、患者様の避難を決断した。避難場所は、患者様の把握がしやすい平屋で広いホールを持つ病棟を選択。限りある人数で全病棟を一度に避難させることは困難なため、各病棟一か所に患者様を待機させるよう指示し、順次移動を開始した。職員の手際の良さと患者様の協力のお陰で、短時間での避難が完了した。避難先で患者様の不安軽減のため、地震の状況や避難の必要性と期限などを説明し協力をお願いした。その後も余震は続いたが、時間の経過とともに応援の職員も増え、毛布の調達や朝食(非常食)の準備などの対応に当たることができた。

今回、地震発生から避難までの流れの中で、幸い大きな被害は受けませんでした。危険を伴うなか患者様や病院のために駆けつけてくれた職員(中には自ら被災した職員もいました)には心から感謝しております。前震を経験してもなお危機感の薄れがあった事を深く反省し、緊急時連絡方法のシステム化やマニュアルの整備など、見えてきた課題への対応を行い、より安心安全な病院づくりに精進していきたいと思えます。

本震発生時、夜間勤務の職員や応援に駆け付けた職員の声

初めての経験で混乱したけど、最低限のことはできたと思う

誰かがそばにいてくれただけで安心できた

助け合うことの大切さを痛感した

緊急連絡網の再チェック・見直しを早急に行い、全職員に周知が必要と思う

他にもいろいろ意見・感想がありました。この貴重な声は全職員で共有し、今後活かしていきたいと思えます。

頭の中が真っ白になり身体が動かなかった

“まさか”のことを考えておくことが大事だと思った

ヘルメットがあればよかった

火災訓練と同様に地震訓練も必要なのでは?

災害時には職員一人ひとりの判断力と行動力が大切だと感じた

院内研修

教育部長 竹森 和子

当院では職員の資質の向上を図る目的で小グループによる研修や、全職員を対象とした研修会などを実施しています。今回「アンガーマネジメント」について学んだことをご紹介します。

アンガーマネジメントとは



“怒り”とは人間にとって自然な感情表現の一つであり、怒りのない人はいないと思います。つらい、悲しい、疲れた、寂しいなど、色々な感情が自分の中に溜まっていると、いつか“怒り”として溢れ出てきます。しかし、“怒り”には個人差があり、同じ出来事でも怒る人、怒らない人がいると思います。カーッととなった時にやっではいけないのが反射的な言動で「売り言葉に買い言葉」です。怒りの感情のピークは最大でも6秒程度で、この6秒をやり過ごすことができれば“怒り”は和らぐと思います。

では、怒りをコントロールするにはどうすればいいのでしょうか？

有効な6秒間のやり過ごし方(例)

手のひらや
太ももに
指で
字を書く

深呼吸
をする

6秒
数える

元気メッセージや
プラス思考の
フレーズを
唱える
(自分で予め決めておく)

などがあります。

アンガーマネジメントという聞きなれない言葉ですが、自分で“怒り”をコントロールできるようになれば最高だと思います。みなさんも是非、カーッととなった時、この「6秒間のやり過ごし方(例)」を試みてはいかがでしょうか！

現代社会において色々なストレスを抱えがちですが、今以上に相手を思いやる心配りができればと思います。

トピックス

ユニフォームが変わりました

平成28年6月からユニフォームが変わりました。それぞれのユニフォームをご紹介します。

事務課と薬剤課です。
外来でお待ちしております。



コ・メディカルです。
生活でお困りのことなど、ご相談ください。

看護助手です。
気分も新たに、患者様に寄り添う介護を目指します。



看護師です。
最初は違和感がありましたが、やっと慣れてきました。

栄養課ページ



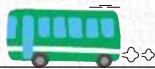
注目メニューは《1月 お正月特別メニュー》・《7月 茨城県の郷土料理》です♪
趣向を凝らしたメニューは大好評です!



- 赤飯
- 金目鯛の煮つけ
- 鶏のから揚げ
- 筑前煮
- ポテトサラダ
- 栗きんとん



- うなぎ飯
- つみれ汁
- 納豆のかき揚げ
- 白菜とベーコンのサラダ
- さくらんぼゼリー



バスハイク

平成28年
11月8日



今回のバスハイクは、フードパル&熊本城桜の馬場城彩苑! フードパルで豪華ランチ♪
煮込みハンバーグ&エビフライ定食で大満足! 城彩苑では劇を観たり熊本の美味しいものを食べ歩き!
そして熊本地震迄の熊本城の様子を観る貴重な旅になりました。



新 入 職 者 紹 介

今回は質問形式で
①職種
②趣味
③好きな食べ物
④座右の銘
について尋ねました。



桐原 大輔

- ①看護師
- ②釣り
- ③肉
- ④一生懸命



内藤 昌治

- ①薬剤師
- ②家庭菜園
- ③トンカツ・ちゃんぽん
- ④家庭円満



原口 叔士

- ①看護師
- ②身体を動かすこと
- ③鶏のたたき
- ④努力は裏切らない



平島 康子

- ①精神保健福祉士
- ②ダンス・ドラマ鑑賞
- ③果物・お菓子
- ④真面目に!誠実に!



齋藤 麻美

- ①運転手
- ②お酒を飲むこと!!
- ③お菓子
- ④一期一会



生田 朋美

- ①看護婦
- ②買い物・旅行
- ③辛い物・お菓子
- ④笑う門には福来る



岩谷 孝康

- ①看護師
- ②ドライブ
- ③菓子パン
- ④人生一度きり



中尾 美和子

- ①看護助手
- ②合唱・昼寝
- ③だご汁
- ④人のふり見て我がふり直せ

(平成28年12月現在)

～勤続40年を迎えて～

感謝

事務課 課長 木永 真智子

高校を卒業して昭和51年3月にソロバンと万年筆を手に入職し、あっという間に40年が過ぎました。当院には、著名な先生方や先輩方がおられ、その背中を追いかけ、日々を重ねていつの間にかこの歳月が流れていたことに自分でも驚いています。この度の表彰を受け、改めて皆様方のご指導、また家族の支えがあってこそこの40年と感謝しております。

去年は、誰もが予想もしなかった2度の激震に生きた心地もしませんでした。患者様方がご無事で、働き続けられる職場があること、一緒に働ける仲間がいること、本当に有難いことだと心から感謝しました。

今年も、笑顔があふれる日常の幸せをかみしめながら、患者様の心に寄り添える医療人として、また心を新たに歩んでまいります。



診療のご案内

- 診療科目 精神科・内科・心療内科
- 受付時間 8:00～11:30／13:00～16:00
(初診) 8:00～11:00／13:00～14:30
- 診療時間 9:00～12:00／13:30～16:30
- 休診日 土曜午後・日曜・祝日

◆受診の前に電話等でのご相談もお受けいたします。

編集後記



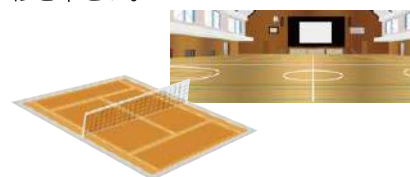
表紙「菊池渓谷」

未曾有の熊本地震から早一年が経とうとしています。まだまだ心の傷が癒えない方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。復興にも多くの年数が必要なようですね… 熊本地震を経験して「普通は当たり前じゃない! 奇跡なんだ!」と思いました。がんばろう熊本!

今回の表紙は菊池渓谷です。この写真は、菊池市内のカフェなどで写真展を開いている職員が撮影したものです。現在は、残念ながら地震の影響で立ち入ることはできませんが、早く復興してこのような力強い姿を見たいものです。

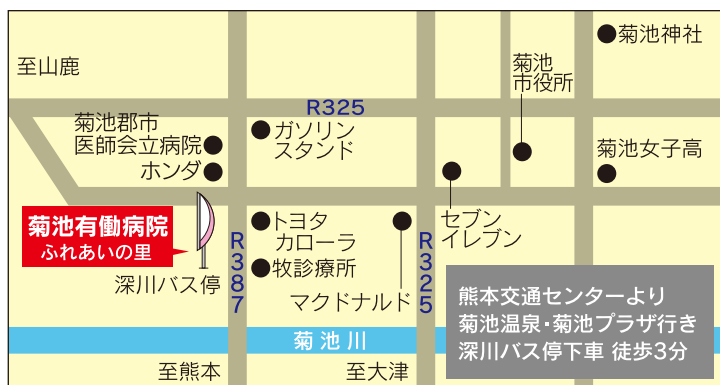
施設開放のご案内

当病院内の体育館(ミニバレーコート4面)・運動場(テニスコート1面も)を地域住民の皆様には開放しています。ご利用希望の方はお気軽にお問い合わせ下さい。



病院理念

信頼と真心ある医療を提供いたします!



菊池有働病院

認知症治療病棟
重度認知症患者デイケア施設

精神科デイケア施設

共同生活援助(グループホーム)

相談支援センター

〒861-1304 熊本県菊池市深川433

TEL:0968-25-3146 FAX:0968-25-2696

ホームページ及びFacebookもご利用ください。

菊池有働病院

検索

ふれあいの里
ひまわり会館
コスモス荘
コスモス荘2
菜の花